



日薬連

革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品 創出のための官民対話

日本製薬団体連合会
2025年11月26日

各国の医薬品市場の魅力が再検証されている今、
日本・世界の人々の健康を守る成長産業・基幹産業となるために

国際情勢を受け、薬価制度の抜本的な見直しによる 医薬品市場の魅力度向上が必要

アドバンテージ(機会・強み)

- 国内創薬力強化への機運
- 優れた医療アクセス
- アジアの市場拡大ポテンシャル

リスク(脅威)

- 米国政策の影響
(最恵国待遇価格、関税)
- 物価上昇
- 経済安全保障リスク

ドラッグラグ・ロス悪化の懸念

医薬品産業の発展に必要な取り組み

◆有事を見据えた経済安全保障・医薬品の安定供給の対策

- ✓安定供給に資する国産医薬品へのインセンティブ設計
- ✓非効率な少量多品目生産体制解消のための基金の拡大

◆国際的な動向を見据えた日本の立ち位置の設定

- ✓国際的に魅力的な薬価制度
- ✓研究開発税制の継続・拡充

◆社会保障費の縮小均衡策からの脱却

- ✓持続可能な医薬品市場の形成(デフレ脱却を見据えた物価・賃金上昇の反映)
- ✓医療DXを含む医療の効率化
- ✓セルフメディケーションを含む自助、公助、共助の理解醸成(アドボカシー活動)

1. **薬価のベースアップ:物価高騰・賃金上昇等を踏まえた薬価改定**
 - ✓ 薬価に物価・賃金上昇分(2年分)として約5%を反映する仕組み
2. **薬価:医薬品のカテゴリーに応じた薬価制度の確立**
 - ✓ 革新的医薬品の価格維持(費用対効果評価の拡大に反対、市場拡大再算定・共連れの廃止)
 - ✓ 長期収載品、後発医薬品は実勢価改定(銘柄別収載)
 - ✓ 基礎的な医薬品(薬価を下支えするルールの充実化)
3. **基礎的な医薬品、経済安全保障や感染症法上で不可欠な医薬品の安定確保のための持続的な財政支援措置**
4. **中間年改定廃止**
5. **OTC類似薬の拙速な保険給付除外については反対**
6. **税制**
 - ✓ 研究開発税制の継続・拡充
 - ✓ セルフメディケーション税制の対象範囲拡大、上下限の見直し、恒久化

1. 薬価のベースアップ物価高騰・賃金上昇等を踏まえた薬価改定

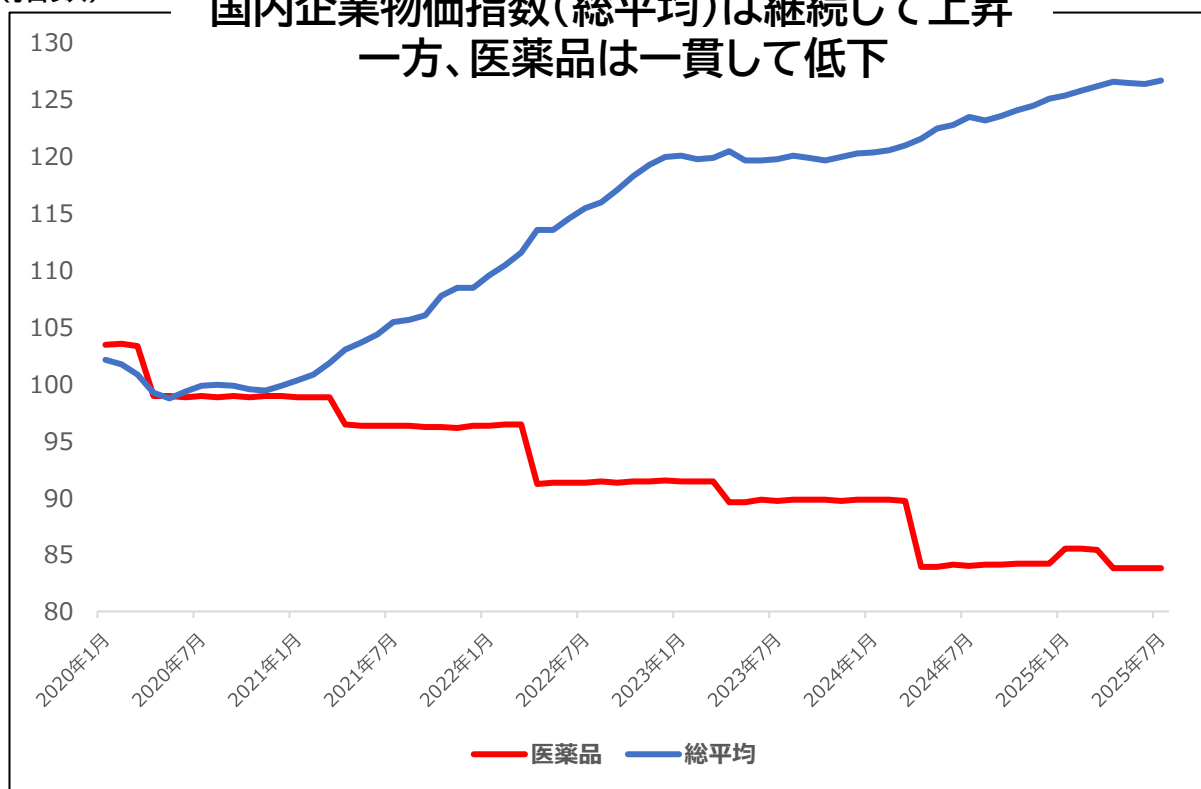


日薬連

- ・医薬品産業を国の成長基盤として維持するためにも、**薬価に物価・賃金上昇分(2年分)**として**約5%を反映する**仕組みを検討すべき
- ・**国家安全保障の観点から**も、国内での生産体制の構築が可能となるよう、**経済合理性のある薬価に適時引き上げ**がなされる仕組みを構築すべき

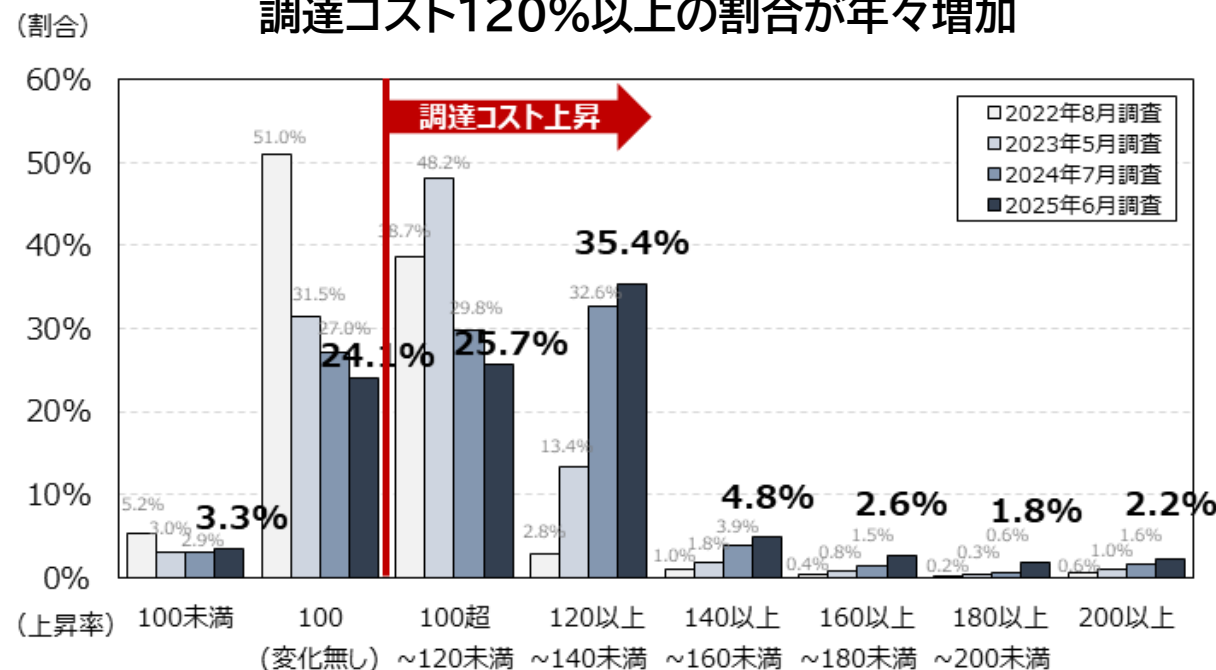
(指数)

国内企業物価指数(総平均)は継続して上昇
一方、医薬品は一貫して低下



日本銀行時系列統計データ検索サイトのデータをもとに作成(2020年平均を100とした推移)

全取引アイテムでもても原薬・原材料・包装材料等
調達コスト120%以上の割合が年々増加



※2021年12月を「100」とした場合の取引全アイテムの調達コスト上昇率を調査
アイテム数：2022年8月:24,041 2023年5月:23,922 2024年7月:23,120を分析 2025年6月:22,093を分析

日薬連保険薬価研究委員会常任運営委員会28社に対し実施したアンケート結果より作成

2. カテゴリーに対応した薬価改定のイメージ

- 市場実勢価改定を基本としながら、革新的な新薬と基礎的な医薬品は分かり易く薬価を維持する
- 定義したカテゴリーごとに価値を評価し、変化に応じて再評価を行う

